

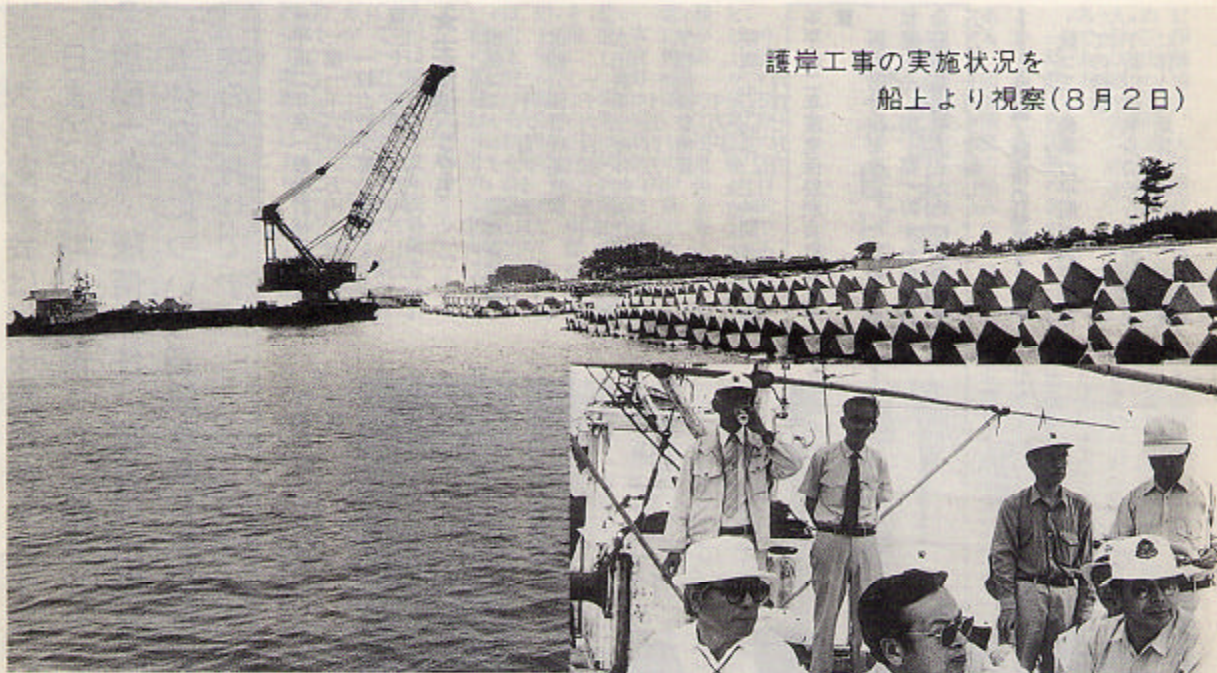
入善町 議会だより

6月定例議会

№.71号

発行所 入善町議会

編集 入善町議会だより編集委員会
富山県下新川郡入善町入膳3,255
☎ 0765 (72) 1100



護岸工事の実施状況を
船上より視察(8月2日)

公職選挙法 改正のポイント

★政治家の寄附禁止

(政治家(候補者、候補者となろうとする者及び現に公職にある者)は、寄附をすると処罰されます。)

★政治家に対する寄附の勧誘・要求の禁止

(有権者が、威圧してあるいは政治家を陥れる目的で寄附を求めると処罰されます。)

★後援団体の寄附の禁止

(後援団体が、花輪、香典、祝儀などを出すと処罰されます。)

★年賀状等のあいさつ状の禁止

(政治家は、年賀状等のあいさつ状を出すことが禁じられます。)

暑中お見舞い申し上げます

盛夏

水キラキラ 町いきいき入善

6月定例議会

6月13日～22日

君島地区に1,500万円

水田農業生産体制強化事業

六月定例会は、十三日から二十二日までの会期で開催され、議案二件、請願六件、陳情二件、議員提出議案五件などについて審議され、結果は次のとおりです。

※平成二年度一般会計補正予算
一億一千六百二万円を増額補正し、一般会計予算の総額を七十一億三千二百四十二万円とした。

★主な使いみち

- ・南部コミュニティ管理運営費 二千六百六十五万円
- ・運動公園管理運営費 一千六百五十万円
- ・水田農業生産体制強化事業費 一千五百万円
- ・学校施設整備費 一千万円
- ・映画「少年時代」上映関連企画費 六百七万円
- ※平成二年度老保特別会計補正予算
医療給付金が確定したため、支払基金や、国、県、町からの交付金を精算返納するために八百六十三万七千円を増額した。

請願・陳情の結果

- ・低コスト農業の早期実現に向けての請願 (採択)
- ・下新川農業共済組合事務所建設に伴う用地貸与についての請願 (採択)

・美善町町内の消雪装置に関する請願 (採択)



▲長蛇の列 (映画「少年時代」8月13.15.16.17日アンコール上映)

- ・大型店の規制緩和に反対する意見書採択についての請願 (継続審査)
- ・ゆきとどいた高校教育を求める意見書採択についての請願 (採択)
- ・県道吉原・入善線一部消雪装置敷設に関する陳情 (採択)
- ・町道日吉・青島線の拡幅改良舗装についての陳情 (採択)

第六回 臨時議会

入善小学校体育館

いよいよ着工

第六回臨時議会は七月二十三日開催され、入善小学校体育館に関する工事請負契約一件、人権擁護委員に関する諮問一件を原案どおり議決、同意した。

◆工事請負契約について

- ・契約の目的
入善町立入善小学校体育館新築工事建築主体工事
- ・契約金額
三億七十六万円
- ・契約の相手
代表者 佐藤工業㈱北陸支店

- ・構成員 佐藤工業㈱北陸支店
- ・廣川建設工業㈱
- ・(株)五十里工務所
- ・中山建設㈱
- ・吉原建設㈱
- ・協同企業体

・工期

契約の翌日から平成三年二月二十八日

◆人権擁護委員の候補者の推薦

- 入善町入籍 鶴嶋 磯松(再任)
 - ・ 下山 水野 周亮(々)
- 以上、両氏を人権擁護委員の候補者として法務大臣に推薦した。

ゆとり創造宣言

すべての国民が生活にゆとりをもち、充実した自由な時間とうるおいのある生活を送ることができるようにすることは、人間性豊かな社会の建設にとってきわめて肝要であり、また、産業の活性化や地域社会の発展のためにも重要である。

しかし、我が国の労働時間の現状は、欧米諸国と比較して年間200時間から500時間も長く、そのことが多くの国民が生活の豊かさを実感できない大きな要因となっている。

本町議会は、ここに「ゆとり創造宣言」を行い、中小企業等に対し配慮をしつつ、すべての国民が週2日は仕事の手を休め、ときどき長い休みを楽しみ、日に団らんのある暮らしがおくれるよう、労働時間の短縮、生活環境の整備等、条件整備に全力を尽くす。

以上、決議する。

平成2年産米の政府買入価格ならびに米穀政策に関する意見書

本県の稲作農家は、良質米の安定生産・安定供給や転作等目標面積の達成、コスト低減等に懸命の努力を重ねてきているところであります。

しかし、本県農業の基幹作物である米については、昭和51年産米の水準にまで引き下げられた米価を更に引き下げようとする動きや良質米奨励金等の見直し問題など稲作農業の将来に大きな不安を感じています。

よって、稲作農業の将来展望と米穀政策の確立をはかるため、下記の事項が実現されるよう要望します。

記

1. 平成2年産米の政府買入価格は、現行価格を維持すること。
2. 良質米奨励金をはじめとした自主流通助成は、現行を確保すること。
3. 適地適産にもとづく稲作農業の将来展望を確立すること。
4. 食糧制度の基本を堅持し、不正規流通米の取締りなどの対策を強化すること。
5. 自主流通米の「価格形成の場」の設定にあたっては、食糧制度の基本的役割を損うことのないようにするとともに、委託販売を基本とする系統農協の共販事業を崩すことのないよう措置すること。
6. 農業基盤整備の一層の拡充をはかるとともに、農道・用排水路等の公共性の高い事業については、農家負担を大幅に軽減すること。
7. 中山間地域における高付加価値農業の振興及び地域開発対策、所得政策を講ずること。
8. 米の生産・流通コストの低減をはかるため、生産資材価格の引き下げにむけての行政指導を強化するとともに、大規模乾燥調整施設等の整備・拡充をはかること。
9. 米飯学校給食への地元産良質米の供給に対する助成措置を充実強化すること。
10. 水田農業の地域経済社会や国土保全等に果たしている役割を正当に評価し、国の基礎としての位置づけを明確にすること。

以上、意見書を提出する。

- 一、高校の学級定数を普通科三十五人、職業科三十人、定時制二十五人にすること。
 - 二、私学への特別助成制度を確立し、経常費助成を大幅に増額すること。
 - 三、教育予算を大幅に増額し、父母の教育費負担軽減をはかること。
- 以上、意見書を提出する。

記

ゆきとどいた
高校教育を
求める意見書

いま、教育の現場には、いわゆる「教育荒廃」など、早急に解決を求められている問題がある。特に、高校は「準義務教育化」し、父母・県民の「教育荒廃」克服と高校教育充実への期待はいっそう高まっている。

とりわけ、平成二年度から中学卒業生の急減期を迎え、学級規模を諸外国なみに縮小する好機が到来している。高校における学級規模の縮小や教職員定数増など、一人ひとりの生徒に「ゆきとどいた教育」を保障する教育条件整備は、今日の「荒廃」克服のための重要な課題となっている。また、教育費の父母負担軽減は、教育の機会均等の保障をはかるうえで極めて重要である。

よって国ならびに県においては、このような状況をふまえ、次の事項の実現に最善を尽くされるよう要望します。

議員

提出議案

五件を

全員一致で

可決

平成二年

六月二十二日

農業委員会委員の推薦について

入善町農業委員会委員に次の者を推薦した。

入善町藤原30	池原 賢晴
◇ 上野2701	道又 光雄
◇ 笹原358	竹田 行雄
◇ 舟見1094-2	山本外輝雄
◇ 古林132	山本 徹

米市場開放阻止に 関する意見書

ガット・ウルグアイ・ラウンドの農業交渉は、本年十二月末の交渉期限にむけ、最大の山場を迎えようとしている。同交渉においてわが国政府は、米等の基礎的食糧については、ガット協定上輸入制限を明確に認めるよう主張し、米の完全自給という基本姿勢を貫いてきました。しかしながら、同交渉の最終局面において、わが国政府が従来の方針を一旦でも後退す

るなら、稲作のみならずわが国農業全体がとりかえしのつかない打撃を被るばかりでなく、食糧安全保障、環境保全、地域の伝統や文化および同経済の維持等の面から地域住民の生活にとっても、多岐かつ長期的な影響が及ぶものと憂慮される。

したがって、日本政府がガット農業交渉において、米の完全自給方針を堅持し、米輸入は絶対行わないこと等、従来の方針を貫くとともに、将来展望をもてる農業政策を確立するよう強く要請する。

以上、意見書を提出する。

ゆきとどいた 高校教育を 求める意見書

求める意見書

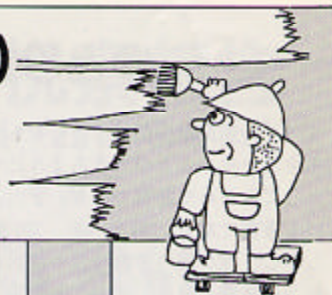
いま、教育の現場には、いわゆる「教育荒廃」など、早急に解決を求められている問題がある。特に、高校は「準義務教育化」し、父母・県民の「教育荒廃」克服と高校教育充実への期待はいっそう高まっている。

とりわけ、平成二年度から中学卒業生の急減期を迎え、学級規模を諸外国なみに縮小する好機が到来している。高校における学級規模の縮小や教職員定数増など、一人ひとりの生徒に「ゆきとどいた教育」を保障する教育条件整備は、今日の「荒廃」克服のための重要な課題となっている。また、教育費の父母負担軽減は、教育の機会均等の保障をはかるうえで極めて重要である。

よって国ならびに県においては、このような状況をふまえ、次の事項の実現に最善を尽くされるよう要望します。

町政に対する…(6月15日)

一般質問



四議員登壇

名水の里を子々孫々に 舟川上流の乱開発防止

西尾

政巳議員(無所属)

宇奈月地先で建設中の多目的ダムは朝日から魚津を包含したものであるが、水量に関しては町の意見を全面的に聞き入れてくれるとは思われない。

しかし、本町には舟川がありその上流のオコ谷、中谷、六谷の三つの谷から流れる汚れない水を集め舟川にダムを作る話があったが現在どうなっているのか。

また、先日東部山麓バノラマ構想が県から発表されたが、舟見山のどこを通るのか併せて問う。

表流水、河川水も 重要な資源

地元負担区分の問題

町長

宇奈月多目的ダムは建設省の事業で、洪水時の水の調整、観光的な放流水や農業用水の確保と直下式発電計画が上乘せになっている。それとしまつは、朝日から魚津までの二市三町の上水道水源確保であり、本町の場合には上水道の水源として日量八千トンの水を確



▲水需要に期待される舟川

保できることになっている。

舟川ダムの問題については、舟見、野中地区の飲料水は現在ある程度確保できるが、降雪時における消雪や大型の開発行為など、今後増大する水の需要に対して十二分に対応できないということ、今後の水の需要を考えながら現在

助役

将来構想として県から発表された山麓道路計画は、県東部の均衡ある発展を図るため朝日、入善、宇奈月、黒部、魚津、上市、立山の道路網の整備を図る目的であり、具体的な構想については、宇奈月

検討し、県の関係課にも陳情をしている。県の方では資料収集をし、舟川に流量計を設置して年間の流量を調査している。

町

町を横切って東西に走っている国、県、町道などの整備はできつつあるが、南北に通っている道路については、道幅の狭さや、見通しの悪いカーブなどの危険な道路が目立つ。改良拡幅に伴う用地買収などの問題もあると思うが、道路整備でもたらす経済効果、住宅地の増大などで町発展のためにも道路整備をする考えはあるか。

道路整備は

町の発展

少ない経費で

大きな行政効果

町長

町道の総延長は四百六十キロで魚津、黒部より上回った道路を持っており整備状況では、舗装率八十五パーセントと高く、改良率は五十八パーセントとやや低い。これはほ場整備事業の中で幅員の狭い道路が町道に移管されたためと言える。

南北の道路については県道の占めるウエイトが高く、町では幹線道路網の整備をし県関係と協議をしながら、国県の補助対象になる道路から整備を行い少ない経費で行政効果を上げ、今後の道路整備に対応して行く。

最高の自然紹介

町のPRと保護対策を

竹内

壮太議員(清新)

朝日新聞の主催、県自然保護協会などの後援で「富山の自然白選」と銘打って応募が開始されているが、「沢スギ」がトップで紹介されている。入善町をPRする千載一遇の機会と考えるが、町の取り組みはどうか。

また、「沢スギ」周辺が開発により外周の損傷が目立つが、保護しないと大事な水、緑がやせ細ってくるのではないかと心配している。観光資源、文化遺産としての保護対策を問う。

水と緑に恵まれた町

保護は専門家と協議

町長

水と緑に恵まれた我が町からも沢スギや國家山など十か所が候補地に挙げられている。選ばれることにより町民が郷土に対して誇りや愛着を持ち、自然を守ろうとする積極的な意欲や意識が高まるというようなことなど、非常に意義あるものと考えている。

これらの応募については小中学校の父兄の皆さんや町民に対して



▲外周の保護対策が迫られる沢スギ林

呼びかけを行っている。町民会館や図書館、役場などにも応募用紙を置いて、多くの方に協力していただくよう運動を展開していく。沢スギ林の保護対策について、これといった方策がないことを非常に残念に思っている。現在関係の皆さん特に地元ではボランティア

二つの大型店建設計画は

問

商工振興審議会が開かれ、商工観光一体化の運動の必要性について意見が出されていた。ショッピングセンター、ショッピングタウンあるいは中央通り線改良に伴うミニ公園、ポケットパーク問題など市街地住民は苦慮しているが、大型店出店計画は現時点でどのようになっているか。

共倒れを危惧

商工水産課長

いま町には二つの大きなショッピングセンター建設計画の動きがある。出店目標を平成三年秋に予定し、それぞれ名古屋通産局の方へ出店表明の計画書を提出されているが、共倒れを心配し今だ受理されていない状況であります。町の商工会長が双方の代表者と話し合いを進めており、近いうちに調整をするとしている。結果については、町長の方へ申し出たいということである。

入善小学校体育館グラウンドの進捗は

問

入善小学校は、仕上げであるグラウンド整備、体育館建設のみとなったが、一日も早い完成を願っている。

其平用水の改修も含め、今後の行程、日程を問う。

体育館完成来年二月

教育長

三か年継続事業の最終年度を迎え、体育館については六月下旬に実施設計を完了し、国庫補助の内示のこともあるが七月中旬には着工できると考えている。完成は来年二月を見込んでいます。

グラウンド整備は五月に着工しており、七月末の完成を目指し鋭意

工事を進めている。

其平用水改修については体育館がぎりぎりにつくことや、用水そのものがいろいろ問題も含んでおり、総合的に見直しをしようということで多少時間がかかると思っている。

児童減少と複式学級

問

児童生徒の減少傾向により入善町の学校でも将来複式あるいは複式学級にもなりかねないと聞くが、これに對しどのように対応するのか。

過少規模校対策を憂慮

教育長

児童の減少傾向は本町のみならず全国的な傾向でもあり、憂慮すべき問題である。この傾向が続くと入善町の学校においても近い将来に複式学級を持つ過少規模校も生ずることが予想される。

教育問題懇談会で検討しているが、行政の方も該当地区へ出向いて、ひざを交えその地区の問題を聞いて対応を考えるべきであるという指導もいただいております。今後さらに地区住民のコンセンサスを得ながら、この問題の解決に当たってまいります。

外国青年招致と活用は

問

語学指導を行う外国青年招致事業は時宜を得たものであるが、具体的な活用についての計画を問う。

生きた英語で 国際化に対応

教育長

町の三中学校の英語指導と英語指導教材の作成援助等に従事してもらおう予定にしている。

外国青年から生きた英語を学び、学習を通じて外国に関する正しい理解を促進するとともに、英語担当教師の指導力向上にも寄与するものと思っている。

一般の方にも英会話などやってみてもらえる余力があるかどうか、本人と話し合いをしていきたい。

心を養う勤労体験

問

最近の子供は物のありがたみを知らないと思う。物を大事にする心を養う見地から勤労体験学習が言われているが、教育長の所信を問う。

汗を流し知恵を高める

教育長

勤労生産学習は自然を愛する心情を培い、勤労の尊さや喜びを体験し計画から収穫までの一連の作業を通して責任感や協調性を養い、自主的、実践的態度を育てることにあると考えている。

汗を流し、知恵を高めるといことが要請されており、本町においてもほとんどの学校で、ベテラン栽培農家の方々や農協職員などの指導や援助を受け、取り組んでいる。

文化のまちは今一步

——住民アンケート結果——

本多 幸男 議員 (清新ク)

物から心の時代

文化行政今後も研究

町長

町外からは入善はよくやっている、力が入っているという評価を

いただいているが、外から見ると評価と内側から見ると評価が異なっていることについては考えさせられるところである。

物の時代から心の時代というのが大きな流れになっており、我々もいち早く察知し、この中で行政を担当している。基本的には、文化行政はどうあるべきかということについて、今後も十分調査研究していきたいと考えている。

顕彰制度の創設は

問

町は昨年まで郷土作家の作品購入ということで二百万円の予算付けをしているが、今までのような作品を購入してきたのか。

また、創作に精励し進歩の著しいもの、あるいは明日を拓く郷土作家の合同展の開催と顕彰制度を創設することを提案したいが、町長の考えを問う。

作品購入 作家の励みに

町長

郷土出身作家の作品購入については、町在住の作家、町出身の作家、町との縁故の作家の三つに分類し、この範ちゅうに入る作家についてのみ作品を購入している。このことが作家に対しての励みになればと念じている。

また、町民会館ギャラリーなどで中部新制作展やいろんな展覧会を積極的に開催し、町民の美術や美術鑑賞に対するレベルアップに

町立美術館の構想は

問

今年に向こう十か年の指針を定める町民総合計画策定の年であるが、芸術文化の振興ということでも、町立美術館、博物館の建設について検討を始める時期と思うが、当局に構想はあるか。

方向付けは 大きな課題

町長

本町の町民会館ギャラリーの場は管理上の問題もあり、できれば独立した美術館の建設が望まれている。

るところである。

美術館、博物館の建設については考えなければならない、あるいは総合計画に盛り込んでいかなければならない大きな課題の一つだと受けとめている。何らかの形で方向付けをしなければならぬ時期になっていっていると思うが、具体的な形で盛り込めるかどうかは明言できない。

現行職員で部制を 能力引出しを期待

問

役場組織機構について、現在それぞれ組織系統において住民の付託に応じておられるが、責任体制の確立と職員の能力引き出しを考えると、現行の職員数で部制を検討される用意はないか。



▲町民会館ギャラリーでの展覧会 (第45回県展移動展)

総合的に検討

現行役場組織

総務課長

県内の町村において、部制を設けているところはない。

現在民間に委託し、業務管理診断調査を行っており、この結果による提言も参考にし部制の必要性や現行組織の見直しも含め、総合的に慎重に検討を重ね行政効果の上がる組織改善を実施したい。

シルバー人材センター

登録人員・作業の見直しは

問

町民が注目をしておりますシルバー人材センターの準備、進捗状況と、十月一日から発足した場合に登録人員や受注作業の見直し、民間企業からの委託作業などをどのように予測されているか。

会員は百二十名を推測

福祉課長

シルバー人材センターの設立に対応し、四月に職員一名を配置して老人福祉センター内に設立準備事務局を設け作業を進めている。

広報で特集を組んだり、パンフレットを作成し各種会合も利用して、センターや会員募集のPR活動を積極的にやっている。

町内事業所等へのPR活動、受注活動も進めており、技能講習会など開き、会員の技能向上とセンター運営の基盤強化に努めていきたい。会員数は百二十名程度を推定している。

他用途利用米

食糧制度の 基本を破壊

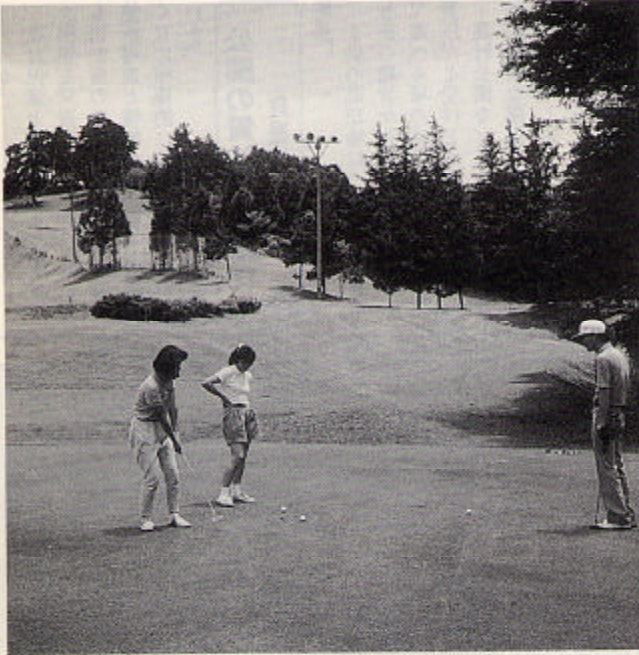
九里 郁子議員（共産）

問

加工用である他用途利用米は、富山県内、入善町の農家は不作で限度数量を出せないときでも食糧制度を守るためと言われ、泣き泣き出荷をさせられてきた。

これが政府古米と差し替えられ、政府米や自主流通米として食用に横流しされていたことに対し、町はどのように考えているか。

他用途利用米は食糧制度の基本を破壊するものであり、廃止すべき



▲大規模な地形改変を伴うゴルフ場造成

きと思うがどうか。

米消費減少

やむを得ない措置

町長

基本的には他用途利用米、特別調整米制度がないのが一番望ましいと考えているが、米の生産力が上昇し一方で消費が減少するような事態を乗り切るためには、一時的、経過的にはやむを得ない措置でないかと思っている。

農政課長

食糧事務所の話として、昨年の他用途利用米と古米の交換は全国で二十五万、このうち県内では五千、余りが古米と交換された。また、コシヒカリは一千四百、が主食用価格で交換され、差益額は三千五百円程度生じており、去年の十二月に農家に支払い精算されたと聞いている。

県内農家は疑問と不満

特別調整米制度

問

今年から実施される、カドミウム含有米との交換を目的とした特別調整米は、他用途米並みの低価格で買入れし、全農が自主流通ルートで食用米として販売するとしているが、カドミウム汚染に関わりのない県内農家が疑問と不満を抱いているが、町の見解は。

価格面でも問題

農政課長

特別調整米は、平成二年度転作配分の中で転作田の軽減、緩和と

いうことで富山県と農業団体首脳が協議し設定された。

県全体で二千八百、余り、本町では百二十、面積にして二十、ぐらいいにあたると思っている。

町の転作推進協議会などで説明、協議しているが、価格面で問題もあり、全町一律配分ということに

不安が大きいゴルフ場

資金計画は

問

棚田観光のゴルフ場造成は大規模な地形の改変を伴い、小動物や渡り鳥のルートなど生態系が崩され、また農業による飲料水汚染なども指摘してきたところである。

いま、この会社が会員募集らしきことを行っているように聞か、実態はどうなっているか。また県に提出された資金計画と、現時点での開発の進捗率を併せて問う。

無農業を期待

町長

一度失われた自然を復元するのは大変だと原則的には考えている。農業の問題については、県や環境庁からも指導要綱が出されているが、近い将来は技術的な面で農業を使わないゴルフ場も夢ではないという環境庁農業土壤課長の話もあり、一日も早い実現を期待している。

会員募集らしきことについては、町が関知せざる問題であり了知していない。



▲質的努力が求められる児童公園

企画財政課長

ゴルフ場の資金計画は、棚山観光株式会社からの届出によると、支出の主なもの工事費五十四億八千万円、用地費六億九千万円、その他を合計すると六十六億八千万円、収入については自己資金が六十一億五千万円、借入金五億三千万円となっている。

進捗状況は一部計画変更があったが、対象面積百十四ヘクタール、地権者二百四十二名で、現時点で同意を得たのは面積で八十八ヘクタール、地権者で九十五名と聞いている。

公園面積県下で三位

満足度の低い子供の遊び場

町には墓ノ木公園など二十数か所の公園があり、一人当たり面積は十八平方メートルで県下三位の位置にあるが、町民総合計画のアンケート結果を見ると、子供の遊び場の満足度が一番低い。この結果をどう

う思うか。

県は児童センターのネットワーク構想を発表したが、町においても雨や雪の日でも安心して遊び、健康増進と情操豊かに育つ環境づくりに積極的に取り組むべきでないか。

公園の質的量的確保

自治体の責任

町長

子供の遊び場について、児童福祉法の趣旨から考えても、安心して遊べる場の確保は地方自治体の責任だと受けとめている。

農村公園なども含め、公園の質的、量的な確保のため努力しているが、必ずしも十分ではないので一層の努力をする。

児童館の問題については、いま一か所であるが、将来は二、三か所ぐらいを町の保育所などの改築計画等もあわせて年度は明らかにできないが、積極的に取り組んでいく。

常任委員会報告

審査のあらまし



▲街かどでの国際交流

総務常任委員会

委員長 五十里隆章

町民の付託に

応える事務事業を

当委員会に付託された議案一件、平成二年度一般会計補正予算は全員一致で可決すべきものと決した。一般会計補正予算で歳入の前年度繰越金は九千六百一十五万四千円、当初予算を合計すると、一億八千六百一十五万五千円であるが、町民の付託に応える事務事業を執行するためには、略に翌年度に繰り越すというやり方を変えるべきという意見もでたところである。

地域レベルの

国際交流を

一般財源で補う企画費三百万円の中の九十一万円については、国際交流の進展が図られる中において、五月二十七日から三十日まで町民の皆さんの多大な協力をいただいて成果を挙げた、フォーレスト・グローブ市姉妹都市友好使節団とパシフィック大学ジャズバンドの来町に関わるものであり、当初予定しなかったバンドメンバー

町のPRに工夫を

映画「少年時代」の関連企画事業費二百九万円については、八月から全国一斉上映に合わせ、入善町出身の芥川賞作家、柏原兵三氏の「長い道」を基に書かれた藤子不二雄A氏のマンガ「少年時代」の映画化に関する、各種企画に対するものであり、二度とない機会を知恵をしばり、工夫を重ね町のPRに努力されるよう要望する。

文教厚生常任委員会

委員長 広瀬善代志

管理運営に

職員派遣検討を

当委員会付託の議案二件、請願二件については、いずれも全員一致で可決、採択すべきものと決した。

平成二年度一般会計補正予算中の当委員会付託部分は、民生費は一千二百四十六万四千円、老人福祉対策費七百三十五万六千円が計上され、地域交流ホーム、デイサービスセンターの借地の一部を購入し舟見寿楽苑に無償貸与する

ものであるが、審議の過程で社会福祉法人である舟見寿楽苑の補助金が、平成十九年まで総額一億九千八百九十八万円を補助することになっており、平成元年度分補助は一千二百二十二万九千円である。町は多額の補助を出しているのだから職員を派遣するなどして指導すべきである。会計諸報告だけで済ませるのは不自然であるという意見も強く出されていた。高輪化社会を迎え、老人福祉の充実は大きな問題であるが、管理運営や会計内容も含め、十二分に

検討されることを要望するものがあります。保育所の修繕料等については、一刻も早い対応が望まれる。

外国青年招致事業

国際交流を促進

教育費の中に外国から青年を招致し、中学校生徒の語学指導や地域住民の国際交流、地域レベルでの国際化を進展させるための事業費四百三十二万円が計上されているが、昨年五月本町とアメリカのオレゴン州フォールレスト・グロブ市との姉妹都市盟約書の調印を機に、国際友好の幕明けを迎える中、本年五月二十七日から三十日まで姉妹都市友好使節団を迎え、国際交流がますます促進される時において、まことに時宜を得た事業であります。

修繕は当初で予算化

小学校修繕一千万円

小学校修繕は一千万円で、主に木造校舎である横山小学校の家庭科室、横山小学校の講堂内装、野中小学校の会議室の改装などであるが、急に対応を迫られたものとは考えられない。以前からわかっていたようなものであり、早めに積算を当初から予算化するよう強く意見が出たところであります。

テニスコート改装

保健体育費一千六百五十万円は、運動公園テニスコートの改装工事、造成後十年を経過し、当時は

県内有数の施設であったが、長年の使用と年間二万数千人が増えた利用者による樹脂系コートの摩耗を、砂入り人工芝に全面的に改装するもので、やむを得ないと理解するところであります。

元年度老人医療費確定

議案第二十六号、平成二年度入善町老人保健医療特別会計補正予算については、平成元年度の老人医療費の確定により精算をするも

産業建設常任委員会

委員長 竹内 壮太

野外ステージを

娯楽の殿堂に

当委員会に付託された議案一件、請願四件、陳情二件のうち、議案は全員一致で可決、請願一号から三号までは全員一致で採択、四号については、重要な問題と考え、消費者の考え方、商工業者の考え方とそれぞれ意見があるとの見地から賛成多数で継続審査とし、陳情二件については、全員一致で採択すべきものと決した。

一般会計補正予算の当委員会付託部分は総額の二十五・三五％で、例年になく少額であり、その内容としては、勤労者野外活動施設費の二百六十万円は野外ステージ周辺の緑化と砂防工事であるが、利用者の利便を図ることも大切で、駐車場の拡大整備、道路の拡幅改

ので、特に意見は出されなかった。請願二件は「ゆきとどいた高校教育を求める意見書採択について」であります。

現在の四十五人学級を諸外国並みの三十五人学級に移行すること、私学助成の増額や父母負担の軽減を図るということとありますが、児童生徒の急減期のいまこそ、教育の機会均等を保障するため不可欠の課題であります。

良を行い、大きなイベントを開催するなど、町民の娯楽の殿堂になるよう要望する。

町の基幹産業

農業を守れ

水田農業生産体制強化事業で一千五百万円が計上されているが、今年の十二月にガット・ウルグアイ・ラウンドの農業交渉期限に向け米の市場開放という問題は重大な段階にある。

この中において、町の基幹産業である農業の生産体制の強化推進は重要な課題であり、農家の抱える問題として後継者不足による担い手対策、生産コストをいかに低くおさえるかという問題に対して、君島地区が町の第一号として取り組まれる。

今後、各地区でも取り組まれるよう期待するものである。



▲内装工事が施される横山小学校講堂



▲最新設備で稼働する浄化センター（鹿島町）

行政視察報告

6月26日～29日(3泊4日)

福島県 本宮町
茨城県 鹿島町
東京 国会議事堂

臨海工業地帯鹿島町の

下水道事業を視る

総務委員長 五十里隆章

我が町が現在策定中の新総合計画は、すでに住民アンケートをはじめ、基礎的調査が終わって具体的にどんな施策を盛り込むかという時期にあります。

今回の平成三年から始まる十年計画では下水道計画が重要な柱となります。

このようなことから、全国各地で展開されている町づくり、地域づくりに学び、新総合計画に生かすため、先進地茨城県鹿島町を訪ねた。

奇しくも、鹿島町長は本町出身

の五十里武氏で、表敬訪問も兼ねて鹿島町長も同行した。

水郷筑波国立公園に位置する鹿島町は、首都東京より百キロの圏内にあり、西は水郷北浦を境に、

あやめで有名な潮来に隣接し、千古の伝統と歴史をもつ鹿島神宮を中心が発展してきた町である。しかしその地理的位置から、主要国道、鉄道の通過もなく陸の孤島と言われた時期もあったと言う。昭和四十年代鹿島臨海工業地帯として開発が始まり、一万六千人台であった人口が、昭和四十三年一万八千人、四十五年二万五千人、四十九年三万四千五百人、現在四万四千八百人となっている。

地勢は標高四十以下の平坦な丘陵地と、湿潤のつよい低平地からなり、北浦湖水と言われる川とも湖ともいわれないような川がある。

このような急激な人口増と地理的状况から、水質の悪化が著しく下水道事業を町の重要施策として、昭和五十年に基本計画を策定、認可区域面積四百七〇ヘクタール、処理人口一万六千六百人、最大汚水量九千七百七十トンの事業認可を受け、事業が進められ、現在整備区域一千二

百九十五ヘクタール、処理人口五万一千人、日最大汚水量二万七千五百四十トンとして都市計画決定され、現在に至っている。

投資額は、昭和五十年より平成元年度まで百二十二億四千八百万円、供用面積は三百三十ヘクタール、普及率は三十二・七パーセントである。平成十七年度を目標に計画が進められている。

下水道事業の計画にあたって、町の財政への影響、受益者負担の内容、維持管理や住民理解(コンセンサス)等について、鹿島町担当者から説明を受け、質疑応答を行った。

受益者負担については、利用権施設負担として、住宅地、農地等面積によって算出するということである。

住宅地は平方メートル当り二百五十円、農地の場合はその四分の一とする。残りの四分の三は宅地化した時点で納入するという事になっている。維持管理負担は上水道の使用量から算出し、自家井の場合は類似所帯によって算出するということとであった。

説明の後、終末処理場、鹿島町浄化センター等関連施設を現地視察。コンピューター制御による近代的施設であり、周辺整備がなされ終末処理場とは思えない設計となっていた。説明の中で注目すべきは沈殿物はコンピナートの中にある企業に引きとられ、コークスと反応させて、火力発電の副燃料として再利用されているというこ

とであった。

とであった。

町長の出身地の入善の視察というところもあってか詳細な説明、施設案内をして戴いた。

本町も早期着工を 住民理解を確信

我が入善町はこれから事業を計画するわけであるが鹿島町の例で見れば、百坪の宅地所有者が支払う受益者負担は八万二千六百円ということになります。又維持管理は(月額千五百円)ということである。この内容からすれば受益者の理解が得られるものと確信している。

現在各戸が個別に設置している浄化槽の施設費、維持管理費から想定すれば、水質浄化のメリットは大きいと思われ、町財政負担、受益者負担など考慮しても入善町も下水道事業に早く着手すべきであると思う。

五十里町長と懇談

十八才まで入善に在住し、数年農民運動を経験後に二十五年前町役場に奉職、鹿島コンピナート計画に従事、企画、総合計画などを主に携り総務部長を本年一月三十一日で退職され、四月に町長に就任された。

現、五十里権助さん(東五十里)の従兄弟であり、入善に多くの親戚がある。本町町長はじめ、議員の中にも知り合いが多く、話が弾んだ。又、総務部長長能氏は新潟出身であるが両親、兄が富山に在

住されているということである。飯野出身の大井公男氏も加わって故郷入善での想い出や現在のことなど話題がつきなかつた。

五十里町長の活躍と、鹿島町の発展を祈り鹿島町を後にした。

昭和十一年完成

国会議事堂を見学

三日目、国会を視察、当初鹿熊参議員の世話で議事堂内の視察と本会議或いは委員会傍聴を計画したが、視察実施の時期がズレてしまい、議事堂視察のみとなった。議員会館では、水田、鹿熊参議員をはじめ、住、長勢、安田氏をそれぞれ関係議員が表敬訪問の後、鹿熊議員秘書の案内で議事堂を視察した。

大正七年一般応募によって設計され、大正九年着工、十七年の歳月をかけて、昭和十一年十一月に完成した議事堂は地上三階地下一階、建築面積五万三千四百六十六平方尺、中央玄関を境に衆・参同一の、対の建物である。

天皇陛下の御休所は総檜作り、本漆塗り、壁は華山織り等、贅を尽くした造りとなっている。本会議場もステンドグラス等種々な細工がなされた造りである。

中央広間は中央の塔の真下であり、法隆寺の五重塔が入ると言われている。窓と天井はステンドグラス、床は大理石のモザイクが絵模様を描いています。この広間には四つの銅像の台座があり、すで

に伊藤博文、大隈重信、板垣退助の三氏の像が立っています。四人目は誰が立つのか?というところである。

一時期、吉田茂の名があがったというが立ち消えとなったようである。国会議員の励みのための座

福島県本宮町
アサヒビール工場を訪ねて

文教厚生委員長 広瀬喜代志

今回の視察の主目的であるアサヒビール福島工場が在る本宮町、我が町への工場進出を考えると非常に興味深いものがあった。

本宮町は福島県のほぼ中央部に位置し、東側は阿武隈山系の丘陵を境にして白沢村に、南側は五百川を境にして郡山市に、そして北西部は大玉村にそれぞれ接している。町の面積は三十九・五四平方キロで、入善町の約半分くらいである。

人口は昭和五十五年国勢調査において一万九千七百七十人で、四十五年からの十年間で一千八百四十八人、約十割の増加をみており、積極的な工業導入により、二十五才、三十四才の主力労働力として期待される人口の増加が目立っている。

また、東北縦貫自動車道の本宮インターが昭和五十六年より供用開始されたことにより、広域的な交通条件は飛躍的に向上している。このような自然、交通環境の中にアサヒビール福島工場二十・四

が立地している。

かということである。

過去、国会の会期延長は慣習化していたが今国会は会期中で終了してしまつた。消費税見直し、政治改革など論議すべきことが多いはずであったが……。残念の一言を残して議事堂を辞す。

本町進出豊富な地下水

ビール会社では水が生命であり、会社は日量九千トンの水を、本宮町上水道で対応しているという。

我が町への進出は、豊富な地下水と広い工場用地の取得が可能なのが大きな要因のようであり、これについて町として真剣に取り組む必要があると強く感じた。

ビールのシェアが七割時代から二十六割へと驚異的な伸びを示したアサヒビール。今日に至るまで本宮町が取り組んだ歴史において、それなりのドラマが生じたことはいまでもありません。

先見性のある施策、おもねる事なく、正々堂々と取り組んだ企業誘致対策が町長の話の端端にうかがわれた。

スーパードライ

一分間に八百本

我が町への工場進出が決定しているアサヒビール、実際に工場を

見学し施設やオートメーション化された設備を見て驚くのみ、一分間に八百本製造されるスーパードライのライン二基、見事である。

福島工場の歴史を見ると、昭和四十五年六月工場用地取得、四十六年十月工場起工式、四十七年六月サイター部門工場完成、六十二年六月サイター製造中止、五十四年ビール工場生産開始、六十二年ビール増産体制に移行(スーパードライのヒット)、平成二年工場第四期増設竣工し、今また、大増設計画に向けて工場敷地造成中であり、大変な勢いであることを感

じた。

平均年齢二十九才

勢いある工場

林立する巨大な醸造タンクに感嘆するとともに、近く実現するであろう我が町のアサヒビールの工場が北アルプスを背景に建つ雄姿を想い描いた。

平均年齢二十九才。エネルギーに満ちあふれた工場から作り出されたビール、勢いある製造行程を見、会社に別れをつけた。車中で飲んだカンビールは、さすがに美味しかった。



▲企業誘致について本宮町長(正面右端)から説明を受ける

議 会 日 誌

五月 (さつき)

- 11日 舟見寿楽苑地域交流ホーム運営協議会
- 16日 三町議長会行政視察
- 18日 米沢名譽町民来町 (岡山県)
- 21日 総合計画調査特別委員会
- 23日 町有林現地調査
- 24日 広域農道整備事業竣工式 (魚津・朝日)
- 25日 議員全員協議会
- 水田農業確立対策推進協議会
- 水防協議会
- 27日 米國フォーレスト・グループ市姉妹都市友好使節団来町 (町内、宇奈月、県庁、その他視察)
- 30日 31日 しようべのま遺跡公園竣工式
- 4日 町村議長会臨時総会 (富山市)
- 6日 北陸自動車道上越・朝日間建設促進協議会 (上越市) 議会運営委員会
- 7日

六月 (みなづき)

- 10日 町民ふれあい号 (宝塚市・大阪府)
- 11日 国保運営協議会
- 13日 議員全員協議会
- 14日 第五回議会定例会 (提案理由説明)
- 15日 議会運営委員会
- 15日 北陸新幹線建設促進期成同盟会総会 (東京)
- 15日 納税貯蓄組合総会
- 15日 議会定例会 (一般質問、質疑、委員会付託)
- 18日 総務常任委員会
- 18日 文教厚生常任委員会
- 19日 産業建設常任委員会
- 20日 議会定例会 (各委員長報告、質疑、討論、採決)
- 22日 交通網対策特別委員会
- 25日 議員行政視察 (茨城県鹿嶋町・福島県本宮町)
- 25日 日韓友好議員連盟総会 (富山市)
- 29日
- 30日
- 3日 下新川海岸直轄事業三十周年記念実行委員会
- 4日 新川ブロック林業組織化推進協議会総会 (魚津市)
- 5日 県道路課長町内道路視察
- 10日 都市計画審議会
- 11日 下新川海岸直轄事業三十周年記念式典
- 13日 日中友好議員連盟総会
- 18日 国体誘致委員会
- 19日 国体誘致種日協会長理事長会議

七月 (ふみづき)

- 23日 議員全員協議会
- 24日 第六回臨時議会
- 24日 岡山県清宮村議会視察来町
- 25日 新川広域圏事務組合行政視察 (長野県・山梨県)
- 27日 第一回シルバー人材センター設立発起人会
- 30日 新川広域圏事務組合定例議会
- 31日 朝日・滑川間国道バイパス建設促進期成同盟会総会
- 新川広域農道整備事業促進協議会総会
- 2日 入善海岸船上視察
- 3日 戦没者追悼法要
- 4日 議会だより編集委員会
- 6日 総合計画調査特別委員会
- 7日 交通網対策特別委員会

八月 (はづき)



▼町有林の被害状況調査

編 集 後 記

二十世紀を指し基盤づくり、播種年の認識で議会、行政が出発した一九九〇年も早や半年が過ぎました。二〇〇〇年国体に伴う種目誘致、総合体育館、中央通り線、八号バイパスルート、大型店、企業誘致による商工業の活性化、国際化時代とともに農産物の自由化問題などありますが、一つ一つクリアルヤしなればなりません。ふんどしを締め直しての白熱した論戦が今後も繰り返されるでしょう。

今年、天候に恵まれ農作物も順調と、聞いております。農家の皆様、米価引下げ、減反、米の自由化、後継者問題など頭の下る思いです。

先人の言葉に「秋までには台風が来るやら、大雨洪水が来るやら判らないが今日も炎天のもとで田の草を取らなければならぬ。これが百姓です。」と述べています。

オゾン層破壊や温暖化、酸性雨、熱帯林開発による砂漠化がテレビで報道され、地球全体が気候を含めて変化しつつあると科学者が明言しています。このことからしても「主食は絶対自給」しなければならぬと思います。

暑い夏がやって来ましたが。お互いに健康に留意しましょう。

一、食に注意し食当りをしないように。

二、睡眠を充分にとつて明日への鋭気を養いましょう。

法律が改正され、暑中見舞を議員が出すことが禁じられました。暑々もお身体を大事に重ねて願ひまして編集後記とします。

(S・T)

- 議会だより編集委員
- 大林 政雄 九里 郁子
 - 竹内 壮太 白又 正司
 - 五十里隆章 広瀬 義孝
 - 広瀬喜代志 本田 幸光
- (オブザーバー)